

隅田川を さかのぼる 福神の系譜

大田南畝文・鳥文斎栄之画『かくれ里の記』まで

報告者

ラドウ・レカ (ハイデルベルク大学研究員)

【略歴】 ルーマニア出身。金沢大学文学部を卒業後、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院美術史研究科博士課程修了、現在ハイデルベルグ大学の研究員として日本美術史ならびに日本地図史の研究を行う。2017年にライデンのシーボルトハウスにて『Mapping Japan』展を開催、2019年にBrill社より論文付図録を出版予定。

司会

小林ふみ子

(法政大学江戸東京研究センター兼担研究員／文学部教授)

2018年

11月30日(金) 18時40分から20時

(入場無料、事前予約不要)

□会場

法政大学市ヶ谷キャンパス

ボアソナードタワー3階0300教室

(所在地:東京都千代田区富士見2-17-1)

□問い合わせ先

法政大学江戸東京研究センター事務室

Tel:03-3264-9682

E-mail: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp

□詳細情報

<https://edotokyo.hosei.ac.jp/>

EToS 江戸東京研究センター
Hosei University Research Center for
Edo-Tokyo Studies

法政大学

HOSEI



大田南畝賛・鳥文斎栄之画 雪月花三幅対のうち「花」(19世紀初め、メトロポリタン美術館蔵)

歌麿の活躍とほぼ同時代、品のよい清新な美人画で人気を誇った旗本出身の浮世絵師鳥文斎栄之(ちょうぶんさい・えいし)。数名の遊客たちが隅田川を吉原まで遡上する肉筆の画卷は、その代表作として多くの作例が残ることで知られています。とりわけ文人大田南畝の戯文『かくれ里の記』の趣向で、その遊客たちを恵比寿・大黒・福祿寿に代えた愛嬌溢れる画卷は興味深い問題をはらんでいます。その発想や表現法はどこから来たのか、気鋭の美術史研究者にその研究成果をお話しいただきます。

主催 法政大学江戸東京研究センター

第2研究プロジェクト江戸東京の「ユニークさ」

共催 法政大学国際日本学研究所

文部科学省補助金私立大学研究ブランディング事業